

### 「二本松さくら展」過去最高3万8,073人 3万人目はさいたま市の鈴木さん

大山忠作美術館で4月9日から5月8日まで開催された「二本松さくら展」は、入館者数が過去最高となる3万8,073人の方にお越しいただきました。5月4日には3万人目となったさいたま市の鈴木さんに、大山忠作氏の「春池」のリトグラフなどが贈られました。

「二本松さくら展」は、当初目標の1万人を大きく上回り、9日の最終日には1日で2,026人の入館者となるなど大盛況のうちに幕を閉じることができました。



▲ゴールデンウィークで帰省中にご家族でお越しくださった鈴木さん

### 絶景ほんとの空に出会った 第62回安達太良山山開き

5月15日、日本百名山で知られる安達太良山の山開きが行われました。雲一つない青空に恵まれた今回の山開きには、県内外から約12,500人が訪れ、新緑の安達太良山を楽しみました。

吾妻連峰、猪苗代湖、磐梯山、蔵王連峰など360度見渡せる大パノラマに、登山者らは足を止め記念写真を撮るなどして、雄大な景色を思い思いに楽しんでいる様子でした。



山頂では、先着3,000人に山開き記念のペナントが配られ、安全祈願祭や恒例のミズあだたらコンテストも開催されました。50人が参加したミズあだたらコンテストで、ミズに選ばれたのは、山田ちあきさん(宮城県角田市)、準ミズには関本恭子さん(福島市)が選ばれました。風もほとんどなく快晴の天気となったこの日は、登山シーズン到来を迎えるに相応しい一日でした。



▲笑顔を見せるミズの山田さん(左)と準ミズの関本さん(右)



▲ミズコン入賞者に記念品を贈る観光大使の大山さん

## JAふくしま未来

## 特別金利で取扱中です。

# 住宅新築・増改築リフォーム・マイカー購入・教育、ローンのご相談はJAへ。

ローンセンター(二本松支店となり)  
毎週日曜日営業中(午前9時から午後3時まで)

住宅ローンのお借換についてもご相談下さい。

## 第30回川の手荒川まつり

### 二本松からおいしい野菜を届けました

4月29日、東京都荒川区で開催された「第30回川の手荒川まつり」で二本松市の農産物や銘酒、加工品などの販売と観光PR活動を行ってきました。今年も「NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」と「東京東和会」の皆さんにご協力いただき、たくさんのお客様にお買い求めいただきました。

強風の影響により、予定よりも早い時間で終了となってしまいましたが、昨年同様、会場は盛大な賑わいをみせていました。



### 全国中体連での優勝を目指して

### 二本松一中男子ソフトテニス部全国優勝

3月下旬に開催された「第1回全国ミズノカップジュニア選抜選手権大会」「第27回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会」において優勝、入賞した二本松一中男子テニス部の生徒と、「第15回全国小学生ソフトテニス大会」において入賞した石井小学校の児童が4月19日、喜びの報告に市役所を訪れました。二本松一中男子テニス部長の斎藤さんは、「大会を通してレベルアップすることができたと思う。全国中体連でも優勝したい」と意気込みを語ってくれました。

## 全国スポーツ大会等出場選手激励金交付制度

### 交付対象大会

- ・日本体育協会もしくはその加盟団体で選抜され、日本代表として出場する国際大会。
  - ・日本体育協会もしくはその加盟団体が主催し、各県・地方代表の選手・チームにより競われる全国大会(スポーツ少年団は東北大会も含む)。
- ただし、交流大会、強化大会、予選会・選考会がない大会は除きます。

### 交付対象者

二本松市に住所を有する方、または本市出身で国民体育大会等において本県選手として登録された方。団体競技に限り、市内の学校の在籍者、または市内の事業所の勤務者で構成されたチームも該当します。  
※監督・コーチ・マネージャー等は交付対象とはなりません(選手を兼ねる場合は対象となります)。

### 交付額(カッコ内は体育協会の交付額)

国際大会：50,000円(10,000円)  
全国大会：10,000円(5,000円)  
東北大会：5,000円(3,000円) ※東北大会はスポーツ少年団のみ

### 申請方法

対象大会の2週間前までに、生涯学習課(市役所3階)へ申請してください。大会終了後の申請は認められません。様式や添付書類など詳しくは下記までお問い合わせください。

◎問い合わせ…生涯学習課生涯学習・スポーツ係 ☎(55)5156

## やすらぎの丘 二本松斎場



全日本葬祭業協同組合連合会加盟

丸又ふれあい会 会員募集中

葬儀のすべてのご相談・ご用命は

有限会社 **丸又葬儀社**

本店/〒964-0917 福島県二本松市本町2丁目99-2 ☎0243-22-5598  
二本松斎場/〒964-0875 福島県二本松市槻木257-5



**0120-03-5598**



今福 進さん(73歳 東京都在住)

二本松市亀谷出身で、高校まで二本松市で暮らす。高校卒業後に上京し、27歳で会社を設立。60歳から人形作家として活動を始め、平成19年には念願の個展を銀座で開催。この度、故郷である二本松市の心の復興に役立てて欲しいと、自身が創作した人形200体を市へ寄贈。



今福さんが子どもの頃、二本松で遊んだ記憶をもとに創作された、たくさんの人形  
その時代を生きていない若い世代でも、なぜか懐かしさを感じてしまいます

▲安達ヶ原ふるさと村ふるさと館にて常設展示中(入場無料)

懐かしくなる空間が  
ここにある



4月24日  
宮森家顕彰祭  
身不知柿植樹

戦国時代に小浜城と宮森城の城主であった大内氏の末裔でつくる宮森家顕彰会で、小浜地区にある西念寺柿がルーツとなったといわれる会津身不知柿の苗木を植樹しました。同じ城下町である会津若松市との交流をさらに深めていければと思います。🍁



最近の活動を写真でお伝えします

二本松を元とえに、  
中長の新野です。



4月24日 消防団春季検閲

春季検閲が城山総合グラウンドで行われました。「災害のないまちづくり」のため、関係者の皆さんには、一層の予防消防に務めていただきたいと思います。🍁

5月3日 杉沢地区敬老会

大正6年から毎年欠かさず開催されている杉沢敬老会が、今年で記念すべき第100回となり、地域の皆さんと一緒に、健康と長寿を祝いました。🍁

# にほんまつの ほんとの空と つながってる

インタビュー / 青年海外協力隊  
マラウイ・青少年活動  
ほんだ らん  
本田 藍(二本松市金色)



## “Just stay, just living”

マラウイの人は家族のことをよく質問してくるのですが、はじめの頃、こんなやり取りがよくありました。

マラウイ人：「兄弟はいるの？」

本田：「お兄ちゃんがいるよ」

マラウイ人：「何をしているの？ Just stay? Just living?」

本田：「仕事してるよ。Just stay? って何？」

マラウイ人：「仕事がないから家にいるってことだよ」

マラウイでは高校を卒業しても仕事がなく、ただ生活しているという方が多いようで、そのような人たちのことを“Just stay, just living”と言っているようです。



ほんだ らん  
本田 藍 青年海外協力隊平成27年度第1次隊として、JICA二本松訓練所で訓練後、アフリカ東海岸のマラウイへ派遣される。現地では小学校のクラス担任補助として、また放課後は算数クラブで子どもたちに100マス計算を教えるなど忙しい日々を送っており、現在も現地で活動中



## マラウイ人の気質や慣習、独特の料理等

基本的にマラウイの人たちは穏やかでゆったりしています。日常の小さなことにも楽しみを見つけるのが上手で、よく笑います。音楽と踊りが大好きで街中にはいつも音楽が流れ、踊っている人がいます。マラウイの食事は「シマ」と呼ばれるメイズの粉をお湯でといて練ったものに、トマトや葉物、豆などを煮込んで塩と油で味付けをしたおかずを合わせるのが一般的で、お肉は高級品なので週に1、2回しか食べません。また、日本の中古車がマラウイ国内をたくさん走っていて、企業の名前やステッカーなどがそのまま日本語で書いてあることに驚きました。

## 福島県人としての誇り

マラウイに来て、2011年の東日本大震災を知っているマラウイ人に会いました。私の出身地、福島も被災地の1つだということを話すと、「街は大丈夫なのか?」「放射能は大丈夫なのか?」と心配してくれ嬉しくなりました。同時に、日本から遠く離れたこの国にまで広がるほど大きな災害だったのだ、ということに改めて認識しました。福島は、震災後日本だけにとどまらず、世界中から多くの支援や応援を受け、少しずつ復興の道をたどってきたと思います。このような状況の中でアフリカのマラウイという地に来るチャンスを与えられた今、日本ではなく福島に行ってみたい、と現地の人に言ってもらえるような活動ができたらと思っています。

